



NIEのある学習風景～普通科「総合的な学習の時間～時事演習」の現場から NIE 学習実践レポート



はじめに

普通科2年生Ⅱ型コースでは、今年度より「総合的な学習の時間」の選択科目の中に「時事演習」という学習活動が開講されました。めまぐるしく変化を遂げる現代において、国内外で起こる時事に関する情報をどう読み解き、自らの主張や意見をまとめていくか。また、これからのライフプランを考える上で、時事をどう活用し、自らの将来に役立てていくかを学んでいきます。

今回の学習活動

学習テーマ：「小学校における制服の役割について」

第1回目は、生徒一人ひとりの身近な時事問題から、現代における生き方、今後の身の振り方を考える学習活動を行いました。今回取り上げた時事問題は、「**小学校における制服の役割について**」です。

小学校における制服の位置づけは、地域によって大きく異なります。小学校は制服を着用することが当たり前と考える人もいれば、私服で登校するのが当然という環境で育った人も多くおります。

様々な地域から国際学院に登校する生徒の中でも、その考えは多様です。しかし、小学校の制服着用は、卒業式行事の正装問題を中心として、各自治体で大きな議論となっています。

制服は必要か否か…周囲との協調性、生徒指導的問題、経済的な配慮など、様々な見解がある制服着用問題を自らの思い込みだけでなく、新聞から得られる情報を用いて、自らの意見を確立していく学習を行いました。

(学習の流れ)

[学習人数]：11人

① 予備調査の実施（授業前日）

学習に入る前に、事前に受講者に簡単なアンケートを取る。アンケート内容は次の通り、**(1) あなたが通った小学校には制服がありましたか。(2) あなたは制服は必要だと思いますか。(3) 必要(不要)だと思ふ理由を教えてください。**

アンケート記入後、受講者全員の制服に対する意見をまとめる。

② グループの設定（授業当日）

授業前に、2つのグループを編成する。グループは、無作為に「制服賛成派」と「制服反対派」に分けた。分けられたグループには、予備調査でのアンケート実態は考慮されていない。つまり、各グループには、賛成、反対の2派が混在した形で学習を始める。

③ 第1回目グループ討議の実施

分けられたグループで、討議を行う。自らの意見に関係なく、それぞれの主張に即した意見をまとめる。意見が整理された後、各グループ代表者は、意見発表を行う。



④ 予備調査の公表、グループの再編成

意見発表後、授業前に調査した予備調査を公表する。グループでの意見はでたものの、個人的な意見はグループとは違う人もいた。11名中2名がグループの意見と異なっていた。

グループの意見と違う生徒に、改めてそのグループ内で主張させ、それを踏まえて同じグループ内で討論を行わせた。



⑤ 第2回目グループ討議の実施

2回目に割振りされたグループでは、「必要と考える根拠」、あるいは「不必要と考える根拠」を明確にするための作業をさせる。ここで根拠を固める材料として、新聞記事を活用させる。新聞記事は、教師によって「小学校の制服に関する記事」を無作為に用意した。用意された記事の中から、それぞれの考え方を根拠づけるものを探させる。グループ内で記事を収集し、それをどのように使うか、討議させ相手を納得させる発表文を作り上げていく。





⑥ グループ発表会の実施

発表文完成後、各グループごとに発表会を実施。それぞれの意見を他者に納得いくように伝える。

⑦ 多数決（評価）の実施

発表後、全員で意見に対する評価を行う。2つの意見が出た後、どちらが納得いく発表として評価ができるか多数決を取る。多数決の際、必ずしも自分が所属する意見に賛同する必要はないとする。対極にある意見が納得いくものであれば、そちらに賛同してもよいとした。

【授業を実践しての様子】

○第1回目のグループ討議について

グループ内の1人が司会として積極的に小学校の制服に賛成か反対かを集約した。グループのメンバーは小学校の制服に賛成か反対かを表明し合ってしっかりと結論付けていた。情報が個人の知識のみであったが、身近に経験した内容であったこともあり、積極的な意見が交わされた。

○第2回目のグループ討論について

新聞を用いての討論は、最初の討論よりも深い討論をするため工夫を凝らしていた。自分の言葉にならない思いを言葉に変えてくれる新聞記事を探そうと真剣に新聞記事を読んでいた。

また、グループの意見と個人の意見が違う理由を、「最初のグループ討論で十分な意見が聞き出せなかったから」とグループ間で分析し、話を聞き出す時間が最初の討論のときよりも増えたように見受けられた。さらに、討論のときも各自で見つけた新聞記事を根拠に話す風景が見受けられた。

【次回の授業にむけて】

1回目の討論の様子に合わせた授業展開を考案することが必要なため、何種類かの授業展開を想定した授業準備が必要なように思われた。この授業では1回目の討論の結果、賛成9名、反対2名と人数に差ができたため、同じグループで話をさせたが、人数差が少なくなったときはグループを再編成するなど、今回の授業と別の流れを作る必要が出てきた。

授業実践する教員としては、討論方式を臨機応変に変える材料を多く持つことが今後求められる。一方で、生徒自身が討論を自主的に活性化できるような環境づくりを求めていると思う。